女學雜誌

第二百八十六號
明治二十四年十月十日發兌

無想劍

晴光子

偉丈夫、戀愛に望を失つて、深山に武道の極意を開悟し、佳人復讐の念熾んにして、終に愛の道を信じ、數篇の短小説、限りなき情を含みて、理想たゞ讀者を慰さめんとするものにあらず、もし道を愛するものあつて之を讀味せられなば 著者が望み足れりとこそ承はれ。

學者安身論

社説

ラーチ夫人を訪ふ

繪畫と道德

女子は結合結社の力なき乎

惡所實見錄の評

下六番町六番地 女學雜誌社

Oct. 18?
no. 286
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 286. October 3rd. 1891.

EDITORIAL: How a Person of Erudition may have Peace of mind.

NOVEL: "Mesoken. "N[illegible] A [illegible]" (A Reed in the Stream.)

CHILDREN'S COLUMN: "Little Lord Fauntleroy."

MISCELLANEOUS: Can Women Cooperate Among Themselves? Art and Morality. Miss Willard's Sayings. A Song. (Kwabo) Women [illegible] a Study. A Garden party in [illegible]. [illegible] Time. An Interview With Mrs. La[illegible].

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百八十六號目次

●社[illegible] [illegible]女子へ

●小説 [illegible]（二十一回）[illegible]に[illegible]を[illegible]の月 流の蘆(二十一回)[illegible]子

●兒童 小公子(第十一回)若松しづ子

●雑録 女性に共同一致の力ありや ○[illegible] ○ウィラード女史寄言 ○[illegible] ○[illegible]女史 ○女學[illegible]武帝の[illegible]

●明屋 ラーン夫人を訪ふ

●時事

●寄信 [illegible]

●女報

A NOBLE STAND FOR NATIONAL PURITY IN JAPAN.

[illegible] the Kioto Memorial for the abolition of [illegible] Imperial Diet. This is an able document [illegible] at a time [illegible] under the [illegible]. The Japanese authorities [illegible] under the supposition that it was one [illegible] the system to be [illegible] the Memorial [illegible]. No Government can [illegible] the moral welfare of the nation it governs. If it attempts to regulate vice, [illegible] the nation's weakness and dishonour; and this result is already [illegible] on every hand. [illegible] in literature, in society, and even in public entertainments, [illegible] and [illegible] authority. It corrupts the family life, blurs the distinction between good and evil, [illegible] the [illegible] people.

Statistics [illegible] how the increase [illegible] births and the decrease [illegible] has been traced in the European continent. It [illegible] the same fruit in Japan. Says the Memorial: "That [illegible] a lesson [illegible] teach us, a lesson which every nation must learn and remember if it would prosper."

The increase of [illegible] the degradation of woman which it entails, and the cowardly injustice of enslaving her in the interests of the pampered [illegible] are then touched upon by the [illegible]. "Indeed, it may be plainly said, there was never a measure which showed more plainly the sex that devised it than this system of license, and never one which showed more the brutal side of man's nature. It is a scheme to protect man in his base impulses at the expense of woman, and society is corrupted in the effort."

Then follow some questions and facts which are equally good for India. "Has the system of supervision, wherever [illegible] in Europe or Japan, diminished immoral diseases? No. At the International Medical Congress held at Vienna in 1870, it was declared that these diseases have increased in Europe rather than diminished; and in the same International Congress, held at Amsterdam in 1879, Dr. Kraus, of Vienna presented elaborate statistics showing that these diseases were more prevalent than ever, notwithstanding strict police and medical regulations; and Lecour, the Chief of Police of Paris, who had full authority from his Government to spare no expense necessary for the complete enforcement of the system, declared after years of faithful effort, 'The evil must be overcome by moral, not by legislative means;' and six years later (1876) added, 'This state of things reveals the existence of a social malady which no mere police measures are able to cope with and destroy.' Later (1888) a committee of the medical society of Zurich, under the direction of Professor Stukowenkof, made a report upon prostitution and the spread of syphilis, in which they condemned as ineffective, all attempts to regulate prostitution by the State; and Great Britain, after nineteen years of trial, during which it was occasionally found that troops stationed in 'protected' districts suffered more from contagious diseases than when stationed in other places, declared the system a failure, and abolished it. The experience of Europe loudly declares that 'protection' does not protect."

Our friends in Japan will have the sympathy of all good men and women in other countries in the fight against evil into which they have so courageously entered.—From the *Bombay Guardian*.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八十六號
明治二十四年十月十日發兌

社説

學者安身論

文字を知るが故に憂患多く、見聞の廣きを以て世を狹隘に感ずるは、無學の學者あり。かゝる學者は、近來賣れ口殊の外悪しく、卒業后途方に暮れて、初めて眞の學問を爲すものあり。十年の苦學一朝の開悟に及かず、今にして漸やく古老の説に感服するものある也。

既に開悟したる輩らは、請ふ立つて何事をか爲せ。未だ其の安心を得ず、書籍を抱いて切りに世に憤ふるの人あらば、請ふ暫らく、吾人が開陳する所ろに聽耳を垂よ。

夫れ、外形に走るは、人の常癖なり。僧を憎むものは、其袈裟に及ぼし、佛を信ずるものは寸八分の細像を崇む。愛憎崇斥ともに外形に走らざるものは極めて稀なり。學者が、文字書籍に局促とするも亦た此に類す。

文字書籍は何ものぞ、白紙に墨を點じ、百種の字形行列するの跡に過ぎざる耳。此もの、何が故に尊とき。たゞ、其表彰する所ろの文意、眞理を顯明するが爲のみ。

然れども、人の眞理を顯明するを徒らに聞くは、天地に散布する眞理を空しく見るに異ならず、只だ之を見聞すとも何の効かあらん、もし之を自己の利に適用せずんば、未だ見聞せざるものと違ふとなし。

左れば、文字書籍を讀むは、人の顯明したる眞理を智識して之を自己の用となし、之に據りて、更に自から進み、以て自から眞理を顯明發揮するの導きと爲さんが爲めのみ。

而して、眞理は人の書籍の中に盡了せず、眼を放てば、天上天下、四邊周方、到る所ろ眞理を存す、皆な吾人が自から研究するを歡迎せざるはなし。人既に多少の書を讀み、先輩が思考する所ろを聽けり。夫より以上は、親から耳目を放つて、活世界に眞理を尋窮すべきなり。學者の能事たゞ書を讀むにありと云はゞ、此學者は人の思想の奴隷たるなり、彼は只だ人の説を暗誦し、第二の書籍となりぬ。而も書籍を利用する所ろの活人にはあらざる也。

昔しアリストートル太陽は毀るとなしと説けり。陽紋(サン

スポツト）發見の說將に流布せんとするとき、某氏の門生、新說の是非を其先生に質す、先生眉を蹙めて曰く、アツストートルの書は若か言はず、必らずや誤ならん、再び行ひて望遠鏡を洗ひ更に熟視せよと。書籍崇拜の愚は、今も尙ほ古へに異なることなし。

書籍中の眞理を重んずるものにして、何故に活世界の眞理を重んぜざる乎、人の顯明したる眞理を見聞することを樂しむものにして、何故に自己の目にて見自己の耳にて聞くの更に樂しきことを悟らざる乎。

書籍は素より多少の眞理の庫なり、然れども宇宙六合の活世界は更に大ひなる庫なり。學校は多少の眞理の敎授所なり、然れども、市場官舍議會法門は更に大ひなる學校なり。棟梁七八の學校に業を卒へて、學ぶべきもの既に卒れりと云ふものは、未だ學びざるの誚あり。眞正の學校は活世界に於て至りて廣し。

故に眞正のスクール（學舍）は、活世界と聯絡し、學舍の卒業生は、活世界の初年生となり、此に於て更にいよ〳〵活理を研究するの覺悟なくんばある可らず。世上實務に忙々たる人時に歎じて曰く、書を讀むの餘暇なく日に愚なることを覺ゆと、凡そ如此き人は元來愚なるのみ、書を讀まざるによりて初めて愚なるにはあらざる也、彼もし意を注がば、忙々たる事務の處理は皆な其の學問にあらずや。學問安くんか他に存せん。此の目前の學を味ふことをせず、反りて幼時の文字書籍に耽らんとす。かゝる人はたとひ文學書籍を讀むとも其の眞利用法を悟らざるべき也。

古來活眼の人屢は此理を說けり。惜ひ哉其論精しからざるにより、一篇英雄が慷慨の辭となりて、學者間の擯斥する所となりぬ。然れども、西洋最も近き、最とも高尙なる敎育學上の偉人は、遂に皆な此英雄と同論法を用ひざることなし。文字書籍を尊崇するの愚は、今の眞學者の皆な擯斥する所ろのもの也。

左らば僕ん、世間普通學校の卒業生諸君よ、諸君が七八年の中學に學び卒へたるものは、文明世界の一市人に必要する平凡の資格に過ず。諸君は之を以て活世界に出で、或は商人となり、或は地主となり、或は製造所の主人となるのみ。而して諸君もし一文の財なくば、則はち一文より積上るの事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

業を爲すべき也。之れ諸君活世界に出る當然最初の業務にして、敢て奇しむべきものにあらず。

然るに諸君は、其普通學を用ひて之を特別の用に充んとし、之に依りて必らずしも敎師たらんとし、必らずしも文學者たらんとす、此の故によりて遂に窮せざるとなし。

夫れ、立身の初めは、何人と云へども困苦せざる可らず、困苦は即はち立身に必要なる當然の學問なり。當然の學問たるとを勘辨し、其至當の所に安んぜざるが故に、常に窮するの念あり。窮するは即はち身の程を知らざるに源ひす。

世上雲の如き普通學校の卒業生諸君、諸君が活世界に出るの初め、需要道を開きて諸君を歡迎せざるは當然の事なり。專門の學者は專門の途に要めらるゝとあるべし、普通の學者は則はち普通の活路に自から方向を開拓すると勿論の理なり。古今未曾て天より金降りて富人となり、地より田湧きて大地主となりたるものあらざる也。自から身を立て、其處世の法を發見するは、則はち其新らしき學問なり、其の最初の創思なり、其當然の義務也。

小説

無想劍

暗光子

第一回　照碎く影も涼しき浦曲の月

蒸立つばかり苦しき晝の塵埃を夕立一しきりに打流して、大俗物も暫しの仙境に魂飛ばすといふ凉風に白銀の漣波打たした滋賀の浦曲、月は三上山を遙か離れて粟津あたりを淸げに照すも興あり、誰やらが「名月や殘るわつさは臺所」と詠み出しそうな膳所の夜町を、今しも通りかゝれる一個の壯年あり、亂れ刺の稽古着に小倉の袴裾みじかく、丈夫の脛を鍛え堅めし筋骨勇ましげに四邊を拂ふ下駄音に武骨響かし、數番の夜稽古に汗を絞りたる竹刀を擔げて、景色に浮かれ赤壁賦を低吟しつゝ悠然と來かゝりしが、忽ち他家の檐下に佇む者あるに心付きてや、佶と見込みし眼光鋭く暫しは考ふるようなりしが、ツカ〳〵と近寄り進みて人や誰ぞと打見れば、賤しからぬ一人の處女が戸に身を凭せかけ憂きに窶れて物案じに打沈にてありけり、憐を見ては一刻も打捨て置ぬが此性得、

「コレ女、何事ぞ夜も深きに……西道場の住居なるが

彼女は忽しく容儀を改め伯と御座たる顔見れば狭霧に曇りながらも眼元涼々しく、口元引締りて能に無位の威厳を溢らせり、流石に聞し口謡居りしが思ひ定めたる色見へて、打出す言葉も沈着いなり、

「伯は風間様にておわするか、不躾なる所見せまいらして恥かしう思ひ侍る、妾こそ悲々道場にて御寂寥の程も伺ひ居れば頼母しくていかで身の上を隠しまいらすべき……昨日東道場との寄合ひ試合に、アノ勝に驕りし米問者たる彼の卑怯さ御承知にや、あまりのとに女の慎みも打忘れて手合を願ひし拙き勝負

「ム、あれか、アノ時大勝不當刀の勢まへ、拙者等の御飲快く下りしが、伯はアノ女性は何なりしか

「知らぬこそは申せ、アノ者こそは叔父が懇意なる上役の牧田間馬様にて、什け腹の作り何か聊間申し込みたる由にて、叔父も叔母も妾への猶き立腹、さまぐ〵お詫申し侍るが……

……行く所もなき此身を知りて在しながら、今更出てゆけとの御折檻、淺猿しや終に勘當の身の上に……

「ナニ勘當ッ、弱きものを……

「妾の勘當は足らわぬ身の事ゆへ未しもに侍れども、痛ましや兩親の位牌さへ佛壇より放下し出されて、さんぐ〵に惡口爲し給ひし上、共に持てゆけとて門前へ突出され侍るかし、彼人等には現在恩誼の深き位牌なるに餘りと申せば非道なこと、子の愚さが亡親までに恥かゝせ申すかと思ひ侍れば、張り裂く妾の胸の内御察しなされて……

壯丁は奉擦りて眉打顰め、一息吹きたる氣も荒らかに、

「チッ殘念非道の人非人、さては噂さに違はぬか、武士の名折れ腑引刻て……好し任せよ

義に捷る血成男兒が未だ位若に綽々たらねど、弱きを助け強きを挫くが持病なりと、人も許した頼母しげなる狹骨男子、門扉を叩く音さへ烈し

「頼む風間俊吉郎所用ありて、來訪せり、頼む、開けよ。

＋　＋　＋　＋　＋　＋

此處女といふは僧家老恩田某の獨り娘にて賤江といへば男勝りと噂さする程なり、漸く前髪取あぐる頃何者が怨みの毒刄にや義仲寺の門前にて、敢果なく父を討たれにけり、其頃殘酷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ある武家の慣ひとし武士にあるまじき不覺の事なりとて其謗責輕からず、家祿は悉く沒收せられて解役と成りし悲しき身の上、追放せられぬをまだしものとして心進まねど叔父の家に跼蹐たる寄食人の身とは成りけり、日頃經るまゝに叔母の邪慳皮肉に入りて母は憂きが上に憂を累ね、終に氣病みの疲れに果敢なく成りて苦しく咳込む聲に遺言を殘し、三とせ前に身逝りぬ。是れまでは共泣きに泣く人もありしに、今は位牌を抱きて忍び音に打泣くを何よりの樂みとするいぢらしさ、唯母が臨終の言葉を命として女ながらも仇を討たんとの決心、西道場に通ひて武藝を修練すること爰に三が年、上達おさ／＼凡ならで、討込む眼勢正しく一念籠るの先生の夜話しも其箸あり、此頃は賤江の涙一滴も見へでおほ／＼憎さげなりとて叔父夫婦が出て行けがしのあしらひも能く身を責めて老實しげに事ゆれば、今更もてあませしとの喞言を人も知る程なり。偖は此度の首尾を脫さじとの勘當沙汰なりと知りてける俊吉郎は、其叔父に遇ふてさま／＼に說き勸解れど許すが如き容貌だになし、何も打談ふこと暫くなりしが、今は最早堪えられぬ血氣の熱騰、言葉は却て冷やかに

五

「武士道かけて賴んだ一言、謂らずばモウ言ふまじ、義といふ文字が分りヤツた時武士と思ふて又遇ひ申さん、ドレ腰抜けにならぬうち座を拂ッて歸らふか

足を拂ふて徐かに身を起し、疊一枚蹈み立てゝゆく後影、赫と焦慮たつ賤江の叔父は短氣に怒る聲振り立て

「待てッ、無禮の過言そこ退くなッ

早や拔きかくる明光四五寸。俊吉郎は尻目に見流し、ジロリと睨んで冷笑ひ、叱咤一聲沈んで鋭く

「シッ、旋風だぞ

流石勇士の英名に膽を挨たれ腕怯みて、拔かけたるまゝ目張るのみ、飽まで猛氣の丈夫が黑眸勝ちなる一閃の眼光は、爛として室内塵も動けぬ計り、さもそう／＼と言はぬばかりに靜かに頷き、擧止に慣れし足列は急かず亂れず悠々と、幽かに延きゆく跫音の消えて塵に波もなし。

小說の要は眞理に血を含ませ、道を肉躰にして世に生れ出でしむるにあり。知己もし此眼識をもて女學小說を賞味せば、亦多少の益なきにあらず。

流の葉

是空子

第五回　池（下）

掛行燈の火影に寝顔を見て、打ほゝゑみ、手巾敷かせたる頭らを支へて枕を静かに膝と入かえ、薄き衣をそと被ひて風の當らぬやう障子を半ば閉て、衣ざわり軽ろくしとやかにして端近ふ立出でたるは、例の姉の君なり。太空を眺めて、月の樹梢に隠るゝを惜しみ、悄然として暫らくは探案するの躰なりける。吹上る池の水さめ〳〵として涙の雨の落るが如く、枝の柔、千々に亂れて人の知らぬ風あるよを知らず。物ふりたる木立、陰小暗ふして、実の落したる木々も情なく淋ぎり、石燈籠、苔の衣に明しを包み、情なんさしてやうやく命を繋ぐが如し。

廊下駄を静かに運びて、池の此方彼方をそろありきすれば、さと吹通ふ風、水の烟を拂つて冷氣骨に染む。佩と引退ぞく足の音に、魚も眠を破りてか、躍り揚りて、水面にかバと響く。岸につたひ立ち上り、すさまじき様したるは飼猫の玉なりけり。

物思ふ身は、万景の寂たるを欲す。左りとてその物の悉く知らず貌なるにはあらず。もの皆な我に同情を表せんとを欲す。たゞ怨めしきは、心なく戯むれ遊ぶ白徒なり。木梢の動くは我を招くにやあらん、たゞサラ〳〵と音立つる木の葉は我を笑ふさまなり。木蔭の暗きは、我に物案せよとて席を備ふるにやあらん、あやにくに光の溜るゝは、我秘密を発かんとするか。宵の間だ、汝が望むまゝに相手せん、今は去りて彼方にゆけと叱ねけど、情けなく鈴の音振り立てゝ玉は嬉ぶ如く戯むる。叱と叱ればいよ〳〵楽しげなり。口にて禁じがたきは、涙を落すの外なし。

丸めたるものを彼方に擲げ、玉を欺むきて逃遁る途端、築山の此方、茂りたる木の間に突と身を隠しぬ。蹲居にてそと足の邊りを拂ひつゝ、折屈みて初めて憂ひと云ふものを自由に案じ出せり。憂を案すると幸か不幸か。夫れ拂ひがたき憂ひを慰さむる唯一つの方は、妨げなく之を憂ひ、憂ひに満足するとにありとぞ。

暫らくして人の來る氣色に驚ろき、枝の間ひより透かし見て、太かへたるが、近づくまゝに確と見とめ、ほと〳〵と手

を打鳴らし、
安ちやないか、とゝだよ。
見當をつけたれど、急に近よらず、反りて居ろの方を顧みて外に人なきを認ため、さて靜かに、
お孃さま、またおひとりで御坐いますか、定めし蚊がひどふ居りませうに。
お前どうして、私がこゝに居るの、分つたノ?、
玉が飛んだお文の切れをくわへて參ましたから、お庭の御散歩と存じましたが、大層お靜かでございますゆへ、何か深いお考中とお推し申しまして、それゆへわざとこつそり伺がひに。
チヤ、そうかエ、いつも能く氣が注くとチー。先刻チ、お熊が歸つて來て、あの婚姻の事が摸樣變になつたつて、言ひましたよ。
左樣で御座いますか、お止にでもなりましたか。
うれし氣に、問ひかくるを、此方はさつぱり浮ぬ調子で
アヽ、まあお止めだそうだがチ、ほんの人が變つた丈で、大江とか云ふ、横濱の今一人の商人の方になるんだとサ。
川上だつて、大江だつて、兩方とも知らないんだから、どちらも好みは仕ないがチ、お熊はなぜか大相、大江を賞めるんです。そして川上を此上なく惡く言つてチ、何んでも、お父さまに色々申上たやうだよ。夫で話しが變つたのだらうと思ふがチ、お熊の賞める人じやア、何の事、嫌です。まだ、お熊に惡るく言われる人の方が頼母しいと思ふワ。
最上の辨解は沈默にあり、曉々しく口に吹聽すればとて、一身の品德明らかに其が反證を擧れば、千言万語は風に散る籾殼の如し。桀の犬忸れて其主に尾を揮れば、其主は桀なるとを知る。惡しき人に彼此と斥ぞけらる者は、反りて其品格を高むるとあり。お熊が周到なる惡口は、寧ろ川上魁の譽れを擧げんとするこそ、世は大道の行わるゝ場なれ。
安は感じ入り、
左樣な道理も御座いましやうが、その樣なとで、飛んだ思し召し違へ遊ばして御後悔遊ばし升ナエ。
ホヽ。
雲散り、月流れ、此時明光發揮したり。庭面眞白に湖唐縑敷

延たる如く、木影地に映り、瞭明に羅畫成れり。小柴垣の枝折戸に、白皚々たるもののヒラリと掛る。次に、ぬつくと突立たる大入道、忽然として現はる。

何ものぞ！

身を搆へて叱咤する聲は、鐵をも貫ぬく。妾女は兼ねて武道に心得あるものと思はる。大入道は、いよ〳〵身を伸せり、戸を開けたり、アナヤ、闖入して進み來れり。

ヨー、お安さんか。

何んだナー、松藏さんかエ、ビックリさせたよ。

妾は笑ひ玉ふ。何に動ぜざりしとて笑ひ聲いと清しく、

松藏、あの白いものは、何だエ。

ハイ、あれでがんすか、今日奶さまのお仕しまして、すつかり汗になりやしたから、一つ洗濯したんでがす。

ソレダツテ、枝折戸へかけるものがあるものカネ。

妾は少し腹立しげなり。

松の茶平がソヽロコイ（同詩）前々號の女學雜誌に太平樂な話り、實に常識に如じなきのみか、今も倒は馬鹿ものゝ世つき嘲ける也。

兒籃

小公子

第十一回（乙）

若松しづ子

フォントルロイが行つてしまい升と、職人たちの仲間で噂さをしては、妙なおどけない言葉を笑ひ〳〵し升た。此人たちも、フォントルロイが好で、手をポッチットの中へ入れ、帽子をチャンと髭の下つてゐる後ろの方へ推し遣り、幼な顔を仔細らしくして、立ながらの話しを聞くとが大好でした。さうして互に、

あんなヽアめつたにねへナア、それにハキ〳〵物をいつて、心持が好ツ、いけねへ奴等（貴族を指す）の種ダタア思へねへやうだナア。

といひ〳〵しましたが。それから又家へ歸つて、此話しを女房どもにして聞せる。女房どもは亦他の女たちに話しをして聞かせるので、フォントルロイの若君がどふして、かふしての話しを、何かしら聞いて知つてゐない者はない位になり升た。

さうして、追々には、侯爵どのゝ。。わるがとう〳〵可愛がるもの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が出來たといふと、頑固、陰險な老人の心情を動かし、暖ためるものが漸くに見付かつたといふことを、誰も知らぬものヽない樣になり升た。

併し其心がどの位暖たまつたかといふと、此老人が生涯に始めて信用されて見て其子供に心の羈が日にくく堅く結びつけられるのを御自分でも、それ程と、分らぬ位といふことを、とくと知るものは有りませんかつた。侯爵はセドリックが美事に成人して血氣盛んな若者となり、前途の望が遙か向ふにある時分を追想して見て、今に異ならぬ優愛な心を持つて、人に望を屬されたらば、どの樣な手柄をたてるであらう、自分についた資力、權力をどの樣に働かせるだらうかと、頻りに想像され升た。子供が暖室爐の前へ橫になつて、何か大きな書に眼をさらして、餘念もない處へ、光線が映じ入つて、風情を添へてゐるのを御覽じてゐて、お眼はさゑくとし、お顔の色が、いつもになく色づくとが有ました。さういふ時分には、心の中に、

この子ならば、何をさせても出來る、出來ないといふはあるまい。

といつて居られ升た。併し、セドリックに對する自分の情愛のことなどに付ては、口へ出して何とも人に仰つたとは有ませんかつた。何かの拍子で、人にセドリックのことをいふとが有れば、態と例の澁さうなホヽ笑みを見せて居られ升た。然るに、フォントルロイはお祖父さまが自分を愛して下さつて、いつも、側に居るのをお好みなさるといふと、例へば、書齋に居れば、お祖父さまのお席近く、食卓に着てならば、お祖父さまのまん向ふに、馬や、馬車に乘るとか、手廣い物見で晩景、逍遙するとかの時には、お側近くゐるのがお好きといふとを直きに知る樣になり升た。

ある時、セドリックが彼の毛革に橫になりながら、見て居た書物から眼を擧げて、

お祖父さん、僕が來た始めての晩、二人仲が好くなきやアつて、いつたの覺へて入つしやるの？、お祖父さんと僕はど仲の好い人はどこへ行たつて有りやアしませんわネ、

サウサ、隨分仲の好い方だらうな、一寸、こヽへ來い。

フォントルロイは搔たくる樣に側へ寄升た。スルト侯爵樣が、

貴樣、まだ何か不足があるか、ないもので、欲しいものが？

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

此時、子供は彼の茶勝な眼を大きく開け、言度て、言兼るといふ趣に、お祖父様を見詰め升た。そして、

アノ、たつた、ひとつ有るんです、

それは又何んだ？

フォントルロイは又少時躊躇ひ升た。そして獨り屢思屈して居た故で、餘程仔細の有さうな樣子でした。侯爵は復び、催促して、

何んだ、〳〵

フォントルロイは、漸くに、

アノかあさんです、

老侯は少しくためたつて、

ダガ、貴樣、毎日の樣にお袋に逢ふじやないか 、それでも、また足りないのか 。

ブモ、先にはいつでもかあさん見てゐ升たもの、夜る寐る時「お休み」いひに行けば、キスして呉れたし、朝起きて見れば、いつでも、そこに居たし、それから、恥ずに、何んでも、話しつこ出來たんですもの、

此お兩方沈默で眼と眼とを見合せ、侯爵の方では、額眉を顰められました、そして、

貴樣、そんなら、お袋のを忘れたとは一切（言葉に力を入れ）ないのか？

エー、決してないんです、さうして、かあさんも、僕決して忘れないんです、ダッテ僕、お祖父さんと一處に居なくなつたつて、矢つ張り忘れやしないじや有ませんか、チイ？僕なほ、お祖父さんのと考へ升ワ、

老侯は、暫時らく、チット考へて、

イヤ、とりやアさうだらう、さうに違ひあるまいナ、

全體フォントルロイが、母を慕ふとに付ては、多少羨ま敷思われて居られる處から聞いて、一層其感じが強くなつた樣でした、これは固より老人が子供を寵愛されるとが、いよ〳〵深くなつた故でした。

然るに、幾程もたゝぬ内に、また〳〵忍び憎い心痛の事件が起り升て、恐らくは、嫁が憎いといふとさへ忘れる程でした。さて其事の起りといふは、赤誕つて不思議なとて、實にこれらが青天の霹靂とでも、いひさうな事柄でした。

エールス、コートが落成する前、ある夜、ドリンコート城に大宴會が有升た。かふいふ會合は、此城にも近年稀な位のでし

一〇
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

た。其數日前には又、サア、ロリデールが、夫人ともゞ此城へ來遊され升たが、此夫人といふは老侯の一粒の姉妹で、此時の來遊は、怪有のことで、市中などでは、殊に大評判で、例の荒物やの呼鈴が夢中にガラゝと鳴りも止まなかつた譯は、ロリデール夫人は三十五年といふ昔し結婚して此來、ドリンコート城へ只一度の外は絶へて訪問されたことがないからでした。此婦人は白髮がよくも風采を装ほふて、頰には愛嬌の笑窪と桃色の去りやらぬ立派な老夫人で、人品も中々好い方でしたが、兄弟の欠點を非難することに於ては、世の人と異つたこともなく、それ已ならず、確乎とした說を立てゝ、遠慮なく之を主張する性質でしたから、自然、老侯と屢々論ずることもあり、隨て多年疎遠になつて居り升た。

この通り、兄妹の間が隔離つて居る中に、夫人は侯爵に付て快からぬ風說を聞くことも度ゝでした。第一妻に對して、優しくないこと、續いて同人が不幸な生涯を終つたこと、侯爵が子供に付て無頓着なこと、總領、次男が人好のせぬ上に、荏弱、無頼で、爲に父にも家にも名折だといふこと、此二人に取つて此夫人は叔母ながら、一度も對面したことがないのでした。然るにある時、十八歲斗りの丈高く、烈氣とした、立派な壯年が邸へ尋ねて來て、夫人の姪セドリック、エロルと名乘り、母の話しに聞いた叔母さまに、一度おめに掛り度さに、近隣を通つた幸ひ、お尋ね申すと云ひ升た。ロリデール夫人は、此若人を見て、いとゞ、懷かしさに、万づを忘れ、强ひて一週間程引止め、こよなき者の如くに寵愛し、饗應して歸へし升た。此若人は氣立も優しく、快濶で、其上有爲の氣象が見えて居るので、歸つた其後も頻に顏が見度く思つて居り升た。然るに其後は、打絶へて茲を訪ふたことのないといふ譯は、エロルが歸城した時、折あしく、父君が不機嫌で、ロリデール、パアクへ再び足踏みすることを固く禁じられたからでした。併しロリデール夫人はエロルを思ひ出す度に、心に優しい情を起し、米國の結婚は向ふ見ずな處業と思ひはしても、父が斷じて家から切り離して、何處の果に、どの樣な暮らしをしてゐるか分らぬと聞いた時、怪しからぬ次末と、ひどく慍り升た。其中死去した噂を聞込み、續いて、不思議に他の二人も卒去したので、米國生れの子供を尋ね出して、新なるフォントルロイ殿として、迎へるのだといふことが又聞こえ升た。其時夫人

は、夫に向つて、かふいひ升たつ

大方、他の子供と同然、怪しからぬ人間にされてしまふのでせうよ、それとも、お袋が立派な人物で、正當な教育が出來る丈の確乎した處が有れば好う御座い升が。

然るに、其母をば子供と引別けるのだと聞いた時は、又も言葉もない程に殘念に思い升た。そして、かふいつて歎き升た

どふも怪からん、一寸、あなたお考へて御覧ん遊ばせ、そんな年の行かない小供をお袋の手を離して、私の兄弟の樣な人間の合手に於すつて、マア飛でもない事じや御座いませんか？それこそ、子供をみぢめに扱ふか、さもなければ、途方もないもて餘し者にする迄に出放だいをさせ升よ、手紙でも遣つて忠告して遣れば宜ですが……

さうするとサア、ロリジールが、

ナニ、おまへそんなとが益に立つものか？

エー、さうも無益でせうよ、ドリンコート氏はそれが益に立つ樣な人物ならば結構ですが、併し、どふ考へても、無法な處置ですよ。

雜錄

女性に共同結社の力ありや

女子友（フレンド）なし、唯ある所ろのものは良人と云ふ友のみ。女は共同の仕事に適せず、もし爲すとせば其夫と共にするあるのみ。女性は總じて結社集會の力に欠けたりとは、世に現われて異論する人のまゝある說なり、米國婦人禁酒會著名の紳士、メリー、リバモア女史、北米評論雜誌に於て偶然此問題を論じて云く。

そも文明とは組織を立つるの謂也と、ある人の言ひけん。協心同力の成果は、通みたる社會に外ざれば作し到きものにして、物の理と社交の上とを問はず、組織ふ立てざるは最も卑んず可きもの也。されば、社會進歩の實相を示すは、人々が其各自同志を容れて共に高き目的の爲に協同するの割合何如んを見るに如となかるべしの言し、人類の一半のみが此組織に適せりと思はれ、諸々の事實を區別して之を其目的に包括するの力あるは唯男子のみと思はれしは、過し昔の事なりけり或は婦女に其力なきものとせられ、若くは感情の流れに身を焼て、偏頗邪見の心を打ち捨てゝ、協同公衆の爲る可き者なしといはれ、男子皆これを許さして諸事其任ならずといふようなかりき。然るに今七十年前の言論は、婦女協同の規模甚少にして、僅に慈善信者の間にかぎり、神學上教育、慈善補助の外何等のこと為さざりしが故なり。其頃は、高等教育の門未だ廣く婦女の爲に開かれず、猶はしや其婦は甚しく無意味の影に縮み、佃嫁を愚用とみ夫との僕にかけられて、權利といふ者を得たりし例なく、因習の羈絆時と共に固ければ、たとへ如何なる時運に會するも、いかでか婦女が其定例の外に逸出するとある可きと思はれたり。爰に數多女丈夫の生れ出でゝ、古來千行の誠を潛さしと若干許なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

さる程に、教育時運の諸門を開かずして、先づ米國の婦女を協同せしめたる事の起りけり。かの南北戰爭の始まりし時、紫輿經世の爲に狂奔せしは男子のみに非ず、愛國の大義はそゞろに婦女の熱情を動かし、貧富貴賤を問はず、互に身命を鴻毛よりも輕んじて、凡そ國の爲とあれば、爲さゞる所あらざりき、是時諸々の會員となれる婦女合計一萬人に及び、初め蔽はれたりし疑念の霧も、遂には信用の光に晴れ渡りて、或は傷兵の看護に慈悲の心をくだき、或は危場に馳付て親切の汗をしぼり、慄弱き身を持て荷物を運び、家族を慰め、軍醫の手助に身の勞るゝを覺えず、病院の交番に終夜眠らざるを悲まず、見舞の手配といひ、義捐金募集といひ、一としておろかなるはあらざりしといへば、「余は未だ婦女に媚るの術を學ばずと雖も、是戰爭に於る渠等の行爲世の辯者詩人が婦女を嘆美せし辭の米國の姉妹に取りて過ぎたるを覺えんや」を見たるものは、誰かといふを聞て誰か正直なるリンコルンを笑ふものあらんや。誠にこれ米國に於る婦女協同の始にして、渠等はよき學問を爲したりけり。數多兵士の間にありて、其猛驕る情を和げたるのみならず、政府の方略を學び、おそろしき政論を聞き、深く一國の命運に正義の志を馳せて、唯其眼界を濶ふせしのみならず、諸事に實際の經驗を重ねたり。されば、男子と事を共に爲すの方法を知り、公共の事務今は全くおのが掌中に決す可く、立法の奧義を得委員の實を備へ、諸事問答滯る事なく、銀行會社の性質を極めて、男子のみ獨り逍遙せし實業界に出沒するの進歩を爲たりき。「斯程の婦女、戰爭の前には何處にありしや」と問へる者、之よりのち屢ありしと云へり。加之、渠等は、始て自他といふものを學び、淺墓なる女心より相別れ居たりける他々の婦女と交を結び、さしもに狹しと見たる世界の忽に濶々と覺えて、女子協同の模範をこゝに懸け、男子の頑夢をや破りたりけん、其頃青年の女子といふは、今日中年の女子にして、其頃の少女は則ち今日青年の女子なるが、渠等が更に心眼の蒔夢を捨たるは、女子大學校專門學校の設ありて、伎術職業の途遠く開けたるにより、過る五十年の間に於て深く渠等の爲せし所を窺ひ見よや。

戰爭の頃はじめて發達せる婦女協同の精神を應用せしと覺ゆるは、新教の婦女にて、名ある人々なりしが、渠等は極て心を外國の婦女傳道に潛め、爰に女子傳道者の必要を感じて、所々に女子傳道學校といふを興し、家政、職業、宗教の學問を授け初めしは、實に今より廿五年前の事にてありし。こゝを出し人々の、異境にて教ゆる學校の數、今凡そ數百あり。外國女子傳道會入費婦人寄附者百五十萬人、寄附金一年平均二百萬圓を下らず。

これに次で來りしものは、基督教徒婦人禁酒會也。其始といふは南北戰爭の後、西方の婦女が、渠等の室家を淸めんとて興せしものなるに、いつしか火勢の枯野を燒くが如く、忽ち全國に燃へ上りて、到る處に其設あるを見、「シカゴ」に首部を置て、毎年年會を開くに至りき。凡そ婦人禁酒會の目當とするは、唯國家に外ならざれは、其主任に當れるものは、以爲く國の法律を變ぜんと思はゞ、先づ國民の確信を動かすにあるべしと。渠等は酒氣を遊び飛す時に、狂人昧者無賴の徒の減ず可きを論及し、爰に身命を犧牲となして、天の信仰を買へる其殺錄の當り難ければにや、八年にして三十五國を併せ、「コロンビヤ」州の法律として州内千二百万の學童に飲酒の害を敎へしむるに至りたり。今會員にして高齡に達せる女子二十萬人、役員三十五萬人、婦人禁酒出板會會費一ヶ月總計金五萬六千九百三十四圓、毎週發行せる新聞の中にて一週平均九萬三百二十七部のものあり。其間名家の著作を出板せること、一億二千五百万頁、是原稿料金二十萬圓、婦人禁酒會會館預算建築費金百二十万圓、家財を加へて預算する時は金二百五十万圓、外に歳入金二千五百圓あり。婦人禁酒會の運動は、これにても其一斑を窺ふに足るべし。以上外國婦人傳道會、基督教徒婦人禁酒會の外「イリノイス」婦人同盟といふものあり。「シカゴ」貿易勞働會といふものあり。「マサチユセツ」には婦人改良監獄といふもの興り。「ニユーヨーク」には女子健康保護會といふもの起る。其他「ラマバイ」會。婦女教育勞働團結。婦女德育會。女子倶樂部。婦人國民會の如き、一々其性質を擧げ來る時は、大部の書籍と雖も之を載せ盡すこと能はずと思ふ也。嗚呼婦女が國民同盟のこの企圖に於ける運命の如何は、措て問はざれ、唯爰に一の確なる事實あるを知らば、誰か婦女がなせる諸々の協同は、幸福に映ろへる影を見せじといふ者あらんや。其苦楚の涙の種も、是よりや一家談笑の間に浮びぬべし。

"For the Cause that lacks assistance.
'Gainst the wrong that needs resistance,
For the Future in the distance,
There's a woman's right to do!"

繪畫と道德（上）

繪畫は彫刻と同じく、天地間に存する美妙の元氣を、ある摸倣したる形をもて露出するを旨とす。故に、樣々の規則方法ありて、此の摸倣製作の術を精しくし、大凡そ畫を書んほどのものは、此方法規則を暗んじて、技術上の修練に達するとを要とするは勿論なり。

然はあれど、たとひよし、此等技術上の修練に堪能を盡したりとも、此故を以て最上の意味に於ける畫人たるを得たりと言ふ能はず。ラスキン曰く、畫道の技術は、喩へば言語の如し、素より是れ思想を載する事にして、切要欠く可らざるものなりと云へど、たゞ言語そのものゝみを用ひては何事をも爲す能はずと、蓋し、人、多くの言語と、其語法と、其文法とを悉く承知したりと雖ども、もし何ものか言ふべく歌ふべき所ろの大思想を所有するにあらずば、詩人辯者たりと云ふ能はざるべし。言語と文法とは、發音の爲の車のみ翼のみ、別に精靈のあるありて之を動かさずんば、万輛千羽ありともはた何の効をかなせん。斯の如く、畫人も、風景を寫し、物の形を似せ、能く其眞に迫るを得るとも、たゞ是のみにては、一の器械手となりたるに過ず、稱して美術者と云ふ能わず。凡そ眞正偉大なる美術には、靈と術との兩面あり、もし其一つを欠かば、美に於て大欠典なりとす、兩者を結合兼備するの度何如んを見て、其の畫人の品位の高低を標す。

ラスキン又曰く、美術は(特に畫を稱す)神の妙工の完きと美なるとを宣言するを目的とす、而して人の爲す業の美術に適ふや否やを見て以て其業の神の功に似ると多きや少なきやを評價すと、續いで又曰く、左れば美術は、人をも其の一部分として含蓄せる大なる此の自然界の形像と法則とに關し、人が何如ほどの感覺怡樂を表するかを現はし示す所ろの品なりと。

カーライル曰く、凡そ眞正の美術品には、天地間に現はるゝ永遠崇高の元氣を畫き出せり、即はち神に似たる所ろの者を目に見ゆるほどに畫き出せるものありと、又曰く、全能なる神の事實常に天より吾等が上に現はるゝといへば、甚はだ漠然として明らかならず、智あるもの出でゝ之れを譯さずば凡眼之れを認たむると能わず、而して美術は此の漠然亂然とし

て散り居る所ろの神の事實を明らかに示すものなり、眞正の美術は、神の事實なり、他に汚されず覆はれざる所ろの事實なりと。

美術の眞の高尚なる意義大率ね如此し。然るに美術の要もしたゞ摸倣製作するのみにあらば「美術に道德あり」と云ふは蓋し意味なきの語なり。たゞ寫すと云ふとの技術に善も惡もあらざれば也。

夫れ、美術の旨とする所ろは、第一、吾等に見るとを敎へ、吾等が掛念せずして放眼する所ろのものに、留念注視せしめんとを要するにあり。左れど、たゞ見ることを敎ゆるのみならず、第二に、何ものを見るべきかを敎へ、吾等が常に見るべきものを畫きて見せ、吾等が見るに益なきものを畫かずして、見せしめざるにあり。然るに此第二の心得に至りて、古今の畫人多少其道を誤まるものあり。ラスキン曰く、古今の畫人を其好める所ろの畫題によりて三種に分つとを得べし、一に淸純派と云ふ、例へば、アンゼリコ、ヘムリン、ペルギノ、フランシア、ラハアエル、ギヲバシニベリニ、ストッスアード、の如き是れなり。此の派は專ぱら純美の光線の內に其靈を浸し、其相貌毫も邪慾の情を現はさず、其畫きたる風景にあらしの樣なく、其形どりたる色つねに輝ける心地す、此の派の畫題は大抵純美なり、常久の喜びなり。二を自然派と云ふ、此の派は打見るものは、善となく惡となく之を其まゝに寫生し、美しきと、悲しきと、醜きと、只一つに取まぜて畫く。例せば、アンゼロ、ビンシ、ギヲット、タルチル、チ、アン、ルーベンスの如き輩之あり。第三を慾情派と云ふ、たゞ害惡暗黑の方をのみ寫し、憂欝暴戾の事を好みて題とす、人事を寫せば、擇む所ろは、乞食なり、慘酷の態あり、亂逆の行ひなり、醜猥の不德なり、此の派は又稱して、自然派、寫實派など云へれど、寧ろ慾情派（センシュアリスト）と云ふに若かず、例せば、サルベートル、ロサ。カラパッギヲ、ミウリロ。ザルバラン。テニエルス。レムブラントのともがら是れなりと。蓋し畫人は其畫題を善く擇み、常に人に見すべきものを見するとを旨として、益あるの美を畫き寫さずんばある可からず。扨て、すでに言へる如く、畫の要は、人に見るとを敎へ、次に、何を見るべきかを敎ゆるものたり。而して、最后に肝要とすべきは、吾等が現在に見る所ろのものよりは、一

尚多くのものゝ一段善きものを見するとを主旨とせざる可らず。詩人、スペンサー、歌ふて曰く

"Beauty is not, as Some men misdeem, in Outward show of things that only seem."

ウイラード女史家言（下）

曰く、明る百年の春には、無數の婦人が、雪箱に堪たる堅き事業の世界に花さきて、更に神の能力の溢るゝを見るべし。大臣は其壇上に立てたる如く可く、其俗欲男子は、今日の如く暖味なる言葉を吐て政界、樂官に入らずといふを、更に心に眠ることあらん。そを如何といふに、其俗欲住たるものゝ常に思ふべき一の問は、其結局といひ、家庭といひ、保福といひ、こゝに眼前を建つる如何なる関係ありや、其投票は其の選擧に入るや入らずやといふにあれば也。

曰く。こゝに米國の民長が、心を傾けたる一の要点あり、そは貿易租税の件を指にも非ず、これは資本家の利己心と雜役務などの色を剝げば該国の紙幣とも申す可れば也。又は南方門題を指にも非ず、議題として云へば、これは既に死眠也、おのれ償は其、其骨を以て和親の章を造り畢ぬ、或は勞働問題を指すにも非ず、これは未だ竹林の中に嘯きて、風を得ざる議題の虎の如し、唯議題の中の地震ともなりて、人々の家々を打蕩ひ、恐怖悲嘆の一大同盟を起たるかの、賣酒差止條例を申す也。

曰く。おのれ償は、かの酒樓のいとふ可き者なるを悲みて、米國の家に、一代の清風を揚げんことを願ふ。

曰く。はじめ神が人に與へ給ひしは、悪世に作らざりし、穀物菓實と雖も、食料として之を日用し、かの胃を害ない、心を傷むる飲料に作らざりせば、一家長久身財息災にておりなん。

曰く。生計を過すに付、明察行ひて宜しと思ひたるは、勵れたる行に、他人の損はんとするを危ぶむ程のこともなく、隠なる行の善行に知れて眠る程のよなきを願む。故事を為にも、かく清なる精神の用意ありて、徒各々其途に前み、共に天神の餘光を仰ぎ奉る可き座席に登らんと、世の人を誘ひ導く可もの也。

曰く。心あたゝかにして温淳うれしきさとなり、或は青き山にうかれ、清なる水に出で、或は要険に遊び花園に戯れたりし幼き往時を思ひ起らすに、其前途幸福にておりし様、今まめあた

りに見るが如し。人は常にかくも有度ものならずや。曰く。おのれ儕の常に章とし侍る青と緑とを見給はずや、かれは大地を閉せる蒼冥の色に外ならず、これは漫々として深き四海の波の文に外ならず。

涙滴々

○

一筆申上候あなた様御きげんよく御座りますかお伺申上ます私ちさひ時かわゆがつて被下候事母よりうけたまはりました私去年から學校に行きます此たび○○の兄さんにかんざしさしとみとつけ進上いたしますどうぞさして下さい大きくなりましたら御目にかゝりましよう母よりも宜敷申上ますさようなら

日下部○○子

○○御伯母さん

もしごみつき候はゝふでにて御洗ひ被下候

女學史料

(三) 神武帝の鹿鳴館

神代の事は姑らく言はず、神武帝日向に在まして吾田の君の妹吾平津姫を娶り玉ふ、其比の習俗たる、妻は里家に居て男之に通ふのみ、然るに帝大倭を平らげ玉へるのち、大久米の命を仲人として三輪の五十鈴姫と野に會遇し、歌を唱和して意ろを通じ、納れて后となし玉ふ、此の野にて歌を和し意を通じ玉ふより后世の歌垣なるもの起れり。

因に云ふ、歌垣の事、歌舞音樂略史、乾の巻に委しく見ゆ。

國史眼に云く、大和の代、歌垣の會盛んに行れ、男女歌を以て思ひを通じ婚姻も此の集會によりて成る、邊鄙の地は山上にて會を爲す、攝津に歌垣山あり、常陸の諺に筑波山の會に聘財を得ざるものは女の數に入らずと、或ひは宴會に其家の女をして舞はしめ、舞竟れば其父母に告げ、娘子を奉じて禮を爲さしめ以て結婚の約とするなど皆な當時の慣俗なりき。

次號の家政に小供の玩具に關する面白き有益なる説を掲ぐべし

鷄の聲

田邊花圃

篁園安藤太郎君其近きほど親しき友十あまりの人々を招き最と樂しき團居を催ふさる。われ亦た其末に侍べり、様々の面白き物語り聞きたる末、安藤夫人が發意にて花園女史が詩篇の心を新躰の曲につゞり而も譜を新にして自から箏に奏でらるゝを聞きぬ。曲の詞はさらにも言はず、調べ神さびて譜世の常ならず。左にたゞ其詞のみを掲げ示すは其はただ殘り惜しき思ひするなり。

「にはつとり、曉つぐる音きくも、其いにしへの、しのばれて、涙をたゝへむ、そことしへに。

「さしのぼる、朝日の出るより、かゝやく、夕日の、入きはみ、御名をあふぎ、たふとまむ、たゝふ物なき、大神は、位を、雨の高きに置、つちのひくきに、へりくだる、御いつくしみも、かんらん山、たかきに、のぼる山道は、けがれし、此世を、今こそと、あゆみさられし、はじめなり。

「昔をこゝに、石原の、しらべの糸、語るとも、げに盡せしぶ、御恵、ユダハエホバの、聖所となり、イスラエルは所領となれり、かゝやく御國日の本の、朝日のかげに、さしそへて、神の榮を、あらはさむ、神のちかえをあらはさむ。

叩扉

無名有情の男生

ラーチ夫人

宣教師ラーチ氏深夜兇賊の爲に惨殺せられ、血に塗れたる賊手今尚ほ縛を受けず。

當夜其夫人の苦衷は如何に難々しかりしよ。彼女も亦殆んど死すべき程の重傷を負ひたり、左れど最と平かに隣房の友の手を假りて、紫血淋々たる夫の亡き骸を、冷めたる床の上にかきのせ、靜かに跪ずきて天の神に祈りけるは、父よ、彼等の罪を許し玉へ、彼等は其惡しきとを知らずして此の大罪を犯せばなりと。聞くもの涙にくれぬはなし。斯てのち彼女は初めて倒れ伏しぬ。

其主となりたる女學校の要務を殘る方なく取扱かひ、故郷に殘る族を見て悶やし苦き歎きを些さか慰さめんとて、去年一ト度びアメリカに歸省ありぬ。

泣すからの滊車スターションに着すれば、車掌車丁も夫人が顏の傷を見て忍ちも眉うちひそめ、帽を脱し近づきて問ふらく、君はラーチ夫人には座はさずやと、聞くものゝ眼すでに

涙にうるほふあり。あゝ、夫人が非運は米洲の電線架する所ろ、新紙の走る所ろ、何處にか聞へざらん。人皆な夫人を留めて曰く、君再たび日本に行き玉ふと勿れ、君が記臆を召びかへしていよ／＼君を悲しくすべし、君が夫を殺せし人の未だ探出されぬほどの殺氣は危ふからずやと。夫人共に可かずして曰ふ、日本はわが夫の墳墓ある地、亦吾夫の傳道の地なり、吾夫を殺せし人は單に賊なり、日本は安んじて命を托すべき地なり、余の再たび彼地に向ふは、則はち日本の品格を他に保證するものなりと。夫人が愛妹泣て曰く、左らば妾、君に伴ない行かん、切めてもの君が慰さめたらんと、固く決して共に啓行せんとす（當時の貴社女學雜誌にも其事見へたり）。夫人之を遮ぎりて曰く、御身もし日本の爲に行んとせば、喜びて伴はん、もし余が爲めとあらば固く辭せんと。斯して夫人は單身再たび亡夫の住ひし而して終に身を棄てたるの地に歸り來りたり。

近頃ろ兇賊の跡分明となりぬなどうはさす。之と共に何ものの無情漢ぞ、夫人は心に復讎の喜びあらんなど言はやす、宵に夫人の心を知らざるのみならず、凡そ氣高き女性の心の底を親ひ得ざる白痴なり。

夫人は實に兇賊の出でんとを祈り居らる。そは亡夫の爲耳ならで、日本の爲めあり。諸外國の人、此の慘殺を以てアンチフォーレン、スピリット（攘夷氣風）に出るとなせば、否な然らず、此は只だ黄白を奪はんとしたる賊なりとの事を證したく、二つには、わが良人は人より怨を受る人にあらず、たゞ女を保護せんとして賊の手に倒れたるのみとの事を證したしと。凡そかゝる念によりて賊の速かに出んことを祈らるゝのみ。而して賊の出でたる時は、其罪の輕んぜられんとを請願する一婦人あるなるべし。

夫人歸國の後ち健康やゝ復し、精氣元の如し、たゞ何となくさびし氣に居ますを見て、同情の念禁ずると能わず、かげ乍ら其近況を伺がひ、記して貴社に寄す。扉を叩きたる人の實錄ぞと思し召せと云ふ。

編者因に云ふ。前號女報欄内東洋英和女學校生手紙監督の事は少しく事實に違ふよしなり。尋常の手紙は固より其儘渡し、たゞ怪し氣と見とめたるものゝみ校長の目前にて開封せしむるとなりとぞ。

批評

女權

新誌子

婦人德義會の機關として、「女權」第一號を出版し、此后月の十五日毎に一回づゝ發兌のよし。命題と云ひ、體裁と云ひ、彼の「女鑑」に對して競ふものに似たり。「女鑑」が一と方の極端に走らされしと望まるゝが如く、此「女權」も亦た他の方の極端に走らされしと望まるゝとなるべし。天賦自由、男女同權、女權擴張など云へる文字は、ちと耳新らしき心地せらるゝなり。然はあれど、會員の中にも聰慧なる用意ありと見へ、其發行の主旨書に、

自由平等の眞理を發揚するに自から順序階級のあるあり内に在ては女子の德義を高め智識を研磨し教育を完全にして獨立自營の道を講じ以て之に當るの覺悟なかる可らず苟し内を收めず徒らに之を唱へんとせば唯世の嘲笑を招かんことを畏る。

と云ひ、處々、我輩、吾人など印刷したる文字の上に張紙して「汝」と改ためたるなど、多少興床し氣なり。願わくは今后常に此の調子にて手綱を扣へつゝ進まれんことを。

○遊廓の内幕吉原實記

新聴子

奈良縣の人某、廢娼論の爲に吉原の實況を取調べんとて、所云る妓夫となりて廓内に住込み、半年の實測を以て大方の弊を視察し、遂に六十頁の報告を作りたり。其熱心感嘆の外なし。著者及び此著書に關する細密の事は異日再たび明記するの機會あらんとす。書は警醒社にて出版したれど發賣せず、たゞ有志者にのみ配付したり。故に、書中の一事實を左に掲げて、他を推諒せしむ。

茲に樓主と娼妓との間に於ける利益金配分方及計算上の概略を擧ぐれば大店の娼妓一人三ヶ年間の買入高平均三百圓と見積り最下等の娼妓を以て茲に明示す

大店之部

一金一千五百零七圓五十錢　最下等娼妓一日玉數一日一個半と見做し一個の玉代一圓にして三ヶ年間千〇九十五日間の間九十日を扣除して一千〇〇五日間の稼高

一金一百五十圓七十五錢　右娼妓の客人に附從する娼妓の席料一日一人と見做し即一人分十五錢三ヶ年間の金高

一金八拾二圓五拾錢　二とめ

一金九十九圓　三とめ祝儀一ヶ月十圓と見做し三十三ヶ月分

惣花娼妓一人に一ヶ月一枚として三十三ヶ月間の

〆金一千八百四十九圓六十五錢　金額

内

三十九圓九十九錢三厘　每日納むる賦金

百八十四圓九十六錢五厘　引手茶屋の口錢

十八圓四十九錢七厘　仝手數料

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

引て金一千六百〇九圓十九錢五厘

一金七十一圓六十五錢　白米九石三斗一升五合
　娼妓及從屬者二人と合計三名の食米にして一日分九合と見積り一千三十五日間の額米

一金三圓十錢五厘　右飯焚料の炭代　西洋釜にて澤山一度に焚くを以て費實に僅かなり

一金五圓五十八錢　入院の食料　一日分九錢三厘六十日間

一金百廿圓六十錢　娼妓小遣ひ金　玉一個に付八錢宛の渡金額

一金三十四圓九十八錢　惣花屋人へ割渡す分也

〆金二百三十五圓九十一錢五厘

差引　金一千三百七十三圓廿八錢也
　此内元金則ち前借金を控除するも
實に三ヶ年間の純益金一千〇七十三圓廿八錢也

一金四十五圓　一ヶ月四十五個の玉代金にして此内娼妓受取稼高金十二圓六十錢也
　右十二圓六十錢の内小遣金として三圓六十錢引き殘金九圓也　此金を前借金三百圓の内へ入るゝ者なれども又外に支拂ふべき金あり

一金五圓也　娼妓が用ゆる夜具蒲團毎月の損料（實に高價と言ふべし）（シカケ）と稱する上衣毎月の損料
一金四圓乃至三圓
〆金八圓乃至九圓也

右計算により娼妓の手取金一厘もなきは勿論此外前借金の掩滯利子等毎月相嵩み元金三百圓が追々增加して五六百圓にも增額する者なり又樓主の利益上に付ては最下等の娼妓にして斯如者なれば一日玉數十個以上を賣る娼妓の利益又多額といふべし其他酒肴飯料等の利益を加ふれば實に驚くべきの至りなり此計算に付ての詳細說明は御面談の上にあらざれば長文を要す故茲に小店の部も共に略す。

〇青年唱歌集　　燕　象　子

美妙齋主人が韻文の第一集にて、博文館より發兌す。後來願はくは成人となり、幸ひにして詩神の惠みの雨露に浴して何とぞ兒孫をもまうけたい所存あるよしにて、青年唱歌集と云ふとぞ。嘗て女學雜誌に揭載したるものながら、主人が想像の豐かなるを示すは「夢」の吟に若くものなければ、今復たび之を推薦紹介せん。るうまにあ軍歌は補譯のよしなれど、調勢雄壯にして、撰字おさ〳〵自由の作にもまさり、殆んど壓卷の體あり。主人が持論のやうにも聞けば致し方なけれど、此歌は餘情多くしてサッヂエスチーブなる方妙なるものを、此點に於ては常に憾む所ろ少なしとせず。左はとて

空高し、雲にて低し。その雲も、雨の母なり。
生るものを、つゝむ白布。大慈悲の世界なりけり。

の結び、又は「願はくは」の歌の如き、凡ならぬ詩想の胸より混々として湧き出るとを證す。

〇ダーヰン氏自傳　　南　石　外　史

チャーレス、ダーヰン氏が自叙傳の中より、理學士五島淸太郎氏が抄譯せられたるものにて、彼の大著作主要のある所ろ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を讀者に容易すく且つ深く味はしむることを得る也。其少時親交したるヘンスロウ氏が、何如にダーヰン氏一生の德行に影響を及ぼしたるか、又此の大理學者は嘗て何如に無雜作に宣教師たらんことに決心し、國教の信仰箇條を悉とく暗誦したるかなどの奇談は、大方遍さるゝことなく此小冊の中に存す。譯文平易にして、而も用意信切なり。ダーヰン氏が理學上の趣味を養ひたるは、フムボルト氏の實見記、ハーシエル氏の物理學研究指南なりと云へり。願わくは氏が自敘傳の亦た我國多數の后輩を鼓勵せんことを。而して此簡易なる抄譯の著は亦た之が第一の案內者とならんことを。

○新著來着

○天野爲之氏譯、高等經濟論

○美術世界卷十一

○造化の誤謬

番町邊を十二時近く廻り歩るきする職人躰の男、

甲。オイ、八公、おつそろしく暗い晩じやねへか？

乙。ムンそふよ、だから氣をつけねへといけねいていんだ。

言ふ中に、足元わるき癖わりと見えて、甲の男溝板に蹉いて、横倒しに轉がりたり。

乙。オイ、わぶねへじやねへか？

甲。エー、コウ、ちつと逆つてらわナア、物事が、こんな暗らい晩に、お天當樣が光つて居ねへナア、おれならおとんな時に出て人助にならわ、入りもしねいに與つ晝間ノカ〳〵しねいでヨ。

○勉強家

ある名高き記者初めて新作を投書する年若の詩人に、

失禮ですが、あなたのお名前は？、

詩人。イヤ、まだ名前が有ませんから、せつせと拵らへようとして居るのです。

○總て耳にするを信ずる勿れ

先頃東海道筋の夜汽車へ乘り組みし一人の紳士大尉にて、一同當惑の躰なるを見兼ねて、田舍者らしき一人の男、

おめへさまア、お氣の毒でも、ちつとべい起てゝ呉ましねへか、みんながおめへさまの鼾で、ちつとも寐られねへちうだから。

紳士。平氣な寐ぼけ聲して、

皆さんにさういつて下さい、耳に聞くことをなんでも本當にしちやいけないもんだつて。

○意外に戯るゝ童兒の會話(實事)

甲。オイ、君、馬に乘り度なへか?

乙。僕乘り度いけれど、こわいから厭だ、

甲。なにこわいもんか、君、なぜこわいつて思ふんだ?

乙。だつて君、落れば死ぬだらう。

甲。なに死ぬものか、僕のとうさんなんか幾度も落たつて死にやあしないよ、きついんだもの。

時事

○支那

哥老會匪徒の暴擧ありてより、各國の聯合艦隊、將に支那帝國に迫り、今や最后の談判を開かんとせり。而して、彼の偉人は昏睡して尙ほ覺めざるが如し。到底莫大の償金にて事濟となるべく、而して其莫大の金は彼に取りて差して痛痒を感ぜざるべし。然れども、悲しい哉、彼を動かすの刺激は、只數度びかゝる不幸を彼が上に重疊するの外なき也。

○女子の言語

堂々たる大日本教育會は、女子の言語日々に亂暴になりゆくを慷慨し、其矯正策を考案中なりとぞ。殊勝なる注意に似たれど、抑そも之を如何にして矯正せられんとする乎。愚考するに、教育上の神聖の府と得意せる邊りの人々が、敕意の聖旨に適ふやう妾を速やかに退ぞくるか又は各學校の教員の品行を今少し監督するとなどの矯正策は、此案よりも、更に容易すく行わるべきものかと思はる。但し、必らずや女子の言語を矯正せんと欲すと云はゞ、文部省に請ふて、德育書と同じ

く、女子の言語を一定するの策を執らしむるに若くは無し。嘗て或人は日本人が足列の四度路なるに歎じ、之を矯正せんことを欲し、様々に方法を工夫して、遂に樂隊利用の事に思付たり。則はち日々樂隊を八方に遣りて逍遙朗奏せしめ、其調子によりて道ゆく人の歩行を調へんとは云ふなり。女子言語の矯正策も、温厚なる女辨士を各地に派遣し（少くとも各女學校内）日々夜々辨じ續けて喩へば蓄聲器が幼稚に吟を教ゆるが如くならしむるも亦た或ひは効驗あらんか。敢て愚策を呈す。

○風紀上の訓令　警視總監は、內務大臣の意に隨がひ左の訓令を發したり。

第一　旅人宿下宿屋等にて男女宿泊の際は篤と身元を取調べ事實夫婦又は兄弟と見認むるときは能く人相年齢及着用衣類等詳細帳簿に認め置き追て最寄巡査派出所へ届出しむる事

第二　料理屋待合貸席等にて酒の前後に手遊びと唱へ花合せ抔持寄り賭行する場合には必ず其筋へ届出べし

第三　府下の消防夫連中が既に免ぜられたる時は俗に云ふはながへと唱へ金銭を貰ひ集める等の強め來るの者が一家に來るなどは習慣上甚だ不都合に付き將來嚴重の取締有之度し

○全國廢娼同盟會

同年會は、昨年の經驗により五月を改めて、年末に近づけたるが、いよ〳〵來る十一月六日を以て、總會を開き、七日、八日を以て大演說會を開かんとし、各地方の同盟會及個人に向つて通告したり。

○四面喝采

千葉縣下は目下廢娼の氣焔大に上り、津四日市の邊りに於ても亦新たに勢ひを張らんとす。上毛の青年は、すでに同縣下の廢娼に全勢を奏し乍ら、來月亦秋季大會を開きて、善後策及び全國へ對するの運動法を議せんとす。

○石島良三郎氏

群馬縣下廢娼論の先覺たり、即はち日本廢娼運動の主唱者たる石島良三郎氏は、無辜の冤に縛せられて、一年の長日月を鐵窓小暗き下に送られたるが、獄中に於て身體の常に健かなりしのみならず、靈性いよ〳〵清全として、常に廢娼、禁酒、婦風、傳道上の事を演說し、無賴惡漢の徒に耳を傾けしめたり。義の太陽遂に黑雲を破り、正判明白にして、去五日無罪の宣告を受けて出獄し、七日一と先づ郷里、諸友家族感謝しつゝ歡び迎ふるの手の中に歸り行けり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

朝鮮

村上唯吉

(一)小生等の附屬事業として目下朝鮮流の家屋にて病院新築中なれども其假病院としてドクトルランヂス氏の宅にて診察及施藥となせるに毎日平均五六十名位の患者來る內婦人二十名に近し韓婦は平素外國人の處に出入すること最も少なく小生は此多くの婦人が來るを知りしは今回始めての程なり日本居留地にも公立醫院あり其他多くの醫院あれども婦人患者が來りしを殆ど無しと云へり。然るに吾醫院に斯く來患者のあるは奇なりと云ふべし思ふに居留地家屋のある所を離れ居る場所なるが故か或は何か彼等の中に一種の信憑すべき評說あるに因るか其所以を探る能はず。

(二)醜業婦女のことに付ては當地着后夫々取調候處從來領事林權助氏等の熱心なる退居政策により一頃よりは實に其跡を絶ち外面より見るときは殆ど何の姿をも見ると能はずと雖も隨分之れに類する奇怪物は尙在留せる有樣なり妓樓は日本人には營業なし只重もなる料理屋ありて之れに奇跡なる俗に酌取りとも云ふ三味線を弄し且或は醜業に染めるものありとす。

(三)居留地より接近の韓人市街に朝鮮人の淫賣屋ありて之れに赴く日本人多し。最も軍艦の水兵等が赴くものは之れなり梅毒頗る多く聞くも恐しき有樣あり。小生は本日晩雨降の砌平梅商店に赴き歸途日韓兩人家の間にある道路を歩行する中本日入港の武藏艦乘組水兵六名づゝ二組徘徊するに會す二組共小生に問て曰く朝鮮人の一件の居に行く道を教へ玉へと小生答て曰予は一件の家なる意味を解する能はず然し韓人住居の市街に出る道は云々の道を行くに非れば韓市街に行く能はず乍失禮此雨降の暗夜に當り一同傘も携へず洗足にして參り見苦き風を爲し韓街に大聲を發しつゝ赴くは吾日本人として失體の有樣なり予は切に諸君の御注意を望ましく思ふなりと答へて相別る。之れ一つの事柄なり。我日本居留地の夫人女子の品格を高尙優美に各自之を反省して己れ自身を高尙ならしむる刺擊物少し思ふ婦人矯風會に類する一會を設立し其事業を盛ならしめたるならば大に裨益する所あらんと。

女報

おい子編

●皇太后陛下　には去る八日京都へ行啓あらせられたり。

●小松宮妃の馬術　小松大將宮妃殿下は、溫和なる內に活潑の氣質に富ませられ殊に馬術には、此程來一層熟練され、今は師範の人々も遁れ御手練と稱へ居る由。

●女官の供奉　青山奉仕の女官萬里小路典侍、平松權典侍、吉田掌侍、竹屋權掌侍、鴨脚、梨本兩權命婦等は、皇太后宮京都行啓の供奉を昨三十日命ぜられたりと。

●京都婦人慈善會　同會は、去る三日午後一時より府立高等女學校に於て、總會開けりといふ。

●婦人禁酒會　は、先月十八日午後三時より銀座會館に催され、築地海岸女學校教師ミスケッリフヒスの有益なる說話ありたり。

●麻布支部會　は、去月廿九日午後七時半より、永坂町青年會館に於て開かれ、會員諸氏の奬勵及び安藤會長の演說等あり、集會者は多きといふを得ざれども、中々熱心の情現はれたり。

●京都醫師佛教婦人會　京都市六波羅尋常小學校教員たる安原初子、吉森梅の兩女史が發起者となり、去る一日錦小路西洞院東入る產婆師內に於て、同志婦人と共に相談會を開きたり。

●造酒業者機關新聞　は資本金を七万五千圓として、全國の造酒家を造石高に從ひ六級に分ち、一級二十五圓より六級二圓五十錢までの義捐金を以て此資本に充つるよしにて、既に設立の概則を配布せりといふ。

●府下廢娼論者　は今日午後集會して打合の筈也。

●磐城平の廢娼演說　去六日午後福島、和田、白石、の諸有志者發起に係る廢娼大演說平にてありき。

●女子の言語の矯正策　近來女學生の言語は、追々卑猥に傾きたりとて、大日本教育會にては、目下之が矯正策を考案中なりといふ。

●更に一つ女子大學　ボストン府ブラウン大學にては去月二日其が年會を開かれ女子入學の事に付種々評議の末遂に學識試驗の上相當と見認たるもののみ許可する樣決せりとなり。又ロードランドなる大學は去月其が一百廿四年間に當るを以て盛なる祝會を催されたりと。

●細君の內助によりて知事たり　州知事イーグル老人。スプリングフイルドレパブリカンは記して曰く、アーカンサス州知事イーグル氏は、同夫人が氏を輔けて遂に此位置に至らしめし一事、實に彼のローガン將軍の一生に似たり。蓋し初め夫人が氏に嫁するの時、氏はよく書物を讀み得ざる程なりき。然るに夫人は能く氏を勸め學ばしめ學生より說教者教師と步を進め、遂に今日の政事家となるに至らしめたり。同州公會が氏を知事に推擧せしも、一に夫人が勢力に依ると云も、過らずと。

●未婚者の課稅　此頃一の珍奇なる議案、ジョルジア州會に提出せられたり。そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は、三十歳以上の未婚男子には、年々二十五弗の税を課し猶五歳を加ふる毎に二十五弗づゝ増税し、其收税者は、同州なる各大學に配分すさなり。同案の衛生會に交付さるゝや、大に賛成を得たり、然れども如何なる議案が州會の賛成を得るや否疑ふべき事なりさ。

●ニユーンハム女大學の校外學生、　同大學昨年の科目表によるに、同校の學生にして我外に居住せるもの百三十三人の多きにあり。然してギルトン女大學又同じき有樣なりさぞ。

●南部オーストラリアに於ける婦人搾乳師　南部オーストラリアの上院にては、昨年婦人搾乳師の為に仕合議せし時、當に僅々一人の小數にて否決せられたり。上院の搾乳者さしては、一定の資格なかる可らず、されど下院に於てはシなし。然して同地公會は兩院の搾乳師な女子に與へんさ盡力中なりさ。

●エヂソン氏の女職工、同氏は氏が電氣に關する發明の中尤も綿密な要する技術上の助手さして、四百人の女職工を用ひ居らるゝさなり。

●女礦山長、即ち女山師ウ[?]ンセスウードリンゲ夫人は、數年前其良人に後れてよりは、ペンシルバニア州アシユランドなる礦山の監督事務を引受け、百八十人の坑夫を使役せらる、夫人が事務に行届きたる事は、毎早朝坑夫に先立ち坑穴中に在りて、被等が來るを待ち、又は坑穴の支柱、空氣を試験などの事を、一切自からにし、又常に役ふが事の[?]に仕要な與ふるなど、平[?]博愛ならざるなく、殊に夫人が監督さなりてよりは、數年一度たりさも坑夫間に不穩の事なく、愈々隆盛なりさ云ふ。

●料理公學會、　家政學會にては、當月ボストン府に於て、公衆の為め衛生上の公衆會を開きゝメーリーリンコルン夫人は開會中其在廚房の事に就き講演し、又同會上種々の質問にも答辯され、當時人アリサミマツクアツイト夫人は、ニユーイングランドなる料理廚房用諸品の概略に付き、又はエドワードアツキンソン氏のアラヂンが爐の事など、種々陳列品につき、講演あるさぞ。

●千六百人の男學生に優る　カーキットヒギンス嬢は年齢二十歳にして、當年ロンドン大學入學試驗に合格さられ、千六百人中の最高點を得られたりさ。

●ウイツトド嬢の席案　同嬢がアルコール類を賣買する商人よりは如何なる物品をも買入れざるべしさの盟約の案を公賠でられたるが、當今シカゴ府中切りに流行すさ云ふ。

●ベーツフ夫人の逝去　公立社會改良會内南部の書記ベーツフ氏は、其が神聖なる事務に忠實熱心なる同職員中にも、非常な手計りなりし。然して同夫人又よく氏さ力を合せ、レッドウッド地方教會内部の集會を長たり。或はドイドハムダウン貧兒發育院の書記たるなど、凡て基督の愛の爲に一身を献げ、人間の幸福の増悟愛すらざるなく特に、ノルマントン街の夫人の家を訪ふ人は實に其仁愛を感ずさ云ふ。然るに今此悲報に接す、誰か深悲せざる者あらんや。されど、夫人が調信なる、必らず天の幽國に平和なる息ひを得られし事を信ずるは、又我等が不幸中の幸さも云べけれ。

●小女及幼兒救濟會　千八百五十三年の創立にかゝる同會は、現今八ヶの支部あり、一はフインスベリー街に在り、他の七は悉くロンドン市部外に在りて、救濟人總數二百二十九人。然して創立以來既に一万五千三十六人に及べりさ。近き十二ヶ月間に請求者中同會の救濟に與かりし者、三百九十七人にして、請求せしも思惜され、又はある補助を受け又は他に送られし人員は、四百一人なりき。同會の著しき點は其が入費の些分は救濟を受たる者等が洗濯等應分の仕方により補ふ事なり。其が一ヶ年の純利は、五千九百九十五弗にして、即今收入額の殆んど四分一に當る。

●横濱に於る雜種兒の教育　横濱居留地外人の數今俄に推計を點示するに由なきも滿氏人をも合し男女二千四五百人に下らざるべし尤も公けの統計は或は是より上るやも知れされども右の概數は正鵠を失はざるべし然して是れ等外國人の中婦女は三百人以下にして殘りの多數は皆な無妻なるが宣教師を除き他は如何に品行方正學術評識の人なりさ雖ども何れも本邦婦女を外妾さし或は自宅内に住居せしめ或は時日を期して通勤せしめ或部分の外國人は本邦婦女の手當低廉なるに乘じ一人にして四五人の外妾を有てるもあり其の本邦婦女が一時の給金に眩惑し前後無分別にも彼れの玩弄物さなり居る有樣は常に横濱に居住する者の敢て珍らしき事に非らず然して多くの外妾が最大なる目的は外國人の種を宿すにあり不幸の赤兒を貯み落すにありけるが果して一念空しからず多くの外妾大半子供を産み明治十二三年頃は格別目立さりしも此の七八年前より俄かに雜種兒増加し其數さても往[?]に極ゝよ席はされども三四百人に下らざるべし此の中滿氏人種は數なく自管人[?]多く大概は學校に入れ本邦婦人の手にて養育するゝ習慣なれども純然本邦流の教育に非らず幼少の時より外國語を習ひ學問の科程一さして歐米風ならざるなきを以て雜種兒にして往々日本の風俗を忘し然かも十八九歳に至れる者も本邦語を解せず本邦文語を解せず全然歐米人さ云ふも過言にあらず雜種兒中の男子は外國に赴き日本を以て故郷さなさされば男子につき紀述するの要なきも婦女は悲しくも自管人より排斥せられ歐蔑も六つかしきを以て或部分は外妾さなり又神風桂の外人娼妓さ墮落し或部分は本邦男子に嫁し或部分は傳道師さ化し其生涯人をして哀情に堪へざらしむる者なり然して是れ等婦女は斷ひ本邦習俗を忘しみ西洋風俗を鼓吹するを以て雜種兒中其婦女に於ける生活は決して輕忽に附すべからず宜しく之れが利弊を討究するは我國家人民の責任ならん歟。(帝國婦人會雜誌)

●林會長の大奮發　林横濱禁酒會長には、邦家のため大に飲酒の害を憂ひ大に靈すあらんことを欲して、特別代價金圓五十錢なる富士山の油畫一万枚を畫き、以て斯禁酒會に献せんさす。

●社員　川合信水耕氏快よく近日枚山より京に歸へりたり。

品名	十月八日
白米(一円ニ付) 一等米	斗升合 一〇四
二等米	一〇七
三等米	一一〇
四等米	一一五
五等米	一二一
正米(一円ニ付) 越中米	斗升合 一五二
越後米	一四七
美濃米	一四三
尾張米	一四一
一志米	一三九
雜穀(一円ニ付) 本貫大麥	斗升合 三四〇
上州小麥	一九五
竹林麥	二一〇
梅澤大豆	二二〇
青柳大豆	二一五
吟小豆	一八〇
白胡麻	一三八
黒胡麻	一六五
蠟燭(一円ニ付) 赤穗	挺 二六〇
大蠟	二七〇
本齋	四三五
新齋	四六五
醬油(一円ニ付) 最上上 / 極上上 / 上物 / 中物 / 並物	樽 七七 八〇 八五 一、一五 一、二五 一、三〇 一、七〇 一、九〇 二、一〇 二、五〇
味噌(一円ニ付) 地製上白	貫 七、〇〇〇
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	五、八〇〇

品名	十月八日
白木綿(一円ニ付) 玉鶴	反 三四五
綾鶴	三七五
日の出鶴	四〇五
若柳	三一〇
稻岡	三四五
蓬萊	三九〇
間銘	三七八
繰綿(一円ニ付) 新坂丹大入	目 八一〇
新京丹大入	八〇〇
新三上銘大入	八三〇
新尾上銘大入	八三〇
新三上文庫入	九〇〇
新尾上文庫入	九〇〇
地綿文庫入	九二五
絹糸(一円ニ付) 本練花色	匁 二六〇
同色物	二五〇
羽二重色物	二四〇
芥子糸色物	二八〇
同湖色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四四五
八王子織物(一反ニ付) 本糸織鼠物	円 五、七五
同珍柄	八、〇〇
節糸織	四、五〇
一樂織	七、五〇
飛地黄八丈	五、五〇
黒八丈	一〇、〇〇
甲斐絹	五、二五
黒七々子	七、五〇
白斜子	七、五〇
仙臺平	八、〇〇

品名	十月八日
製茶(一貫目ニ付) 山城江州稀大頭	円 二、五五
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七〇
同大頭	一、三〇
同中頭	一、二五
同中茶	一、〇〇
乾海苔(一百枚ニ付) 洲崎	円 七〇 一、〇五
大森	七〇 一、〇五
深川砂村	七五 一、〇五
大師潮田	六七 八〇
上總	四〇 六五
仙臺	四五 六五
炭(一円ニ付) 伊豆上	俵 四五〇
同中	五六〇
同下	六五〇
角備上	二九〇
丸備上	二四〇
水油(一樽ニ付) 地水	円 六、二〇
胡麻	九、〇〇
荏油	八、八〇
桐油	六、五〇
綿油	七、一六
坂水	七、二八
石油(一箱ニ付) チヤスター	円 一、五六
デボース	一、五六
ホーキ	一、五八
ロシヤ	一、五四

明治女學校卒業生會記事

●大學新嘗會

例月新嘗會明日曜日午後二時より本校にて相催候

●新入會員

七月學期にて卒業后、新に入會ありし諸君如左、

普通科卒業　山田みき子
同　増田たき子
同　岸本りう子
同　吉田きよ子
同　小金澤たか子
同　藤林ます子
同　永島なか子
英學專修科(舊規則)卒業　石井かね子
同　波多野りう子
同　落合かく子

●會員進退

吉田キヨ君は甲府英和女學校に、岸本リウ君は大阪一致女學校に聘せられ。山田、増田、永島、小金澤の三君は本校高等科に入らる。

全國廢娼同盟會

連合會及個人諸君に告ぐ

本年々會を來十一月六日(金曜日)午後二時明治女學校内に開き、翌七日翌々八日の兩夜厚生舘に於て大演說會相催候。右に付例年の通り、各地方の團躰及個人諸君より委員を派遣し其地方運動の景況を報道せられたく候。此旨既に郵報致候と雖ども、尙本紙上にて廣告候也。

東京廢娼會
東京廢娼壯年義會
東京婦人矯風會
東京婦人白標俱樂部

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院醫學士三島通良先生著

皇后宮御覽

はゝのつとめ

增補訂正第二版

親の巻 妊婦産婦の心得 定價金三十錢(郵税二錢) 子の巻 日本育兒法 定價金四十五錢(郵税四錢)

右は我國無双との好評を博したる日本母子衞生書なり先般增補訂正の上再版したり醫科大學産科婦人科小兒科病室幷に群馬縣高等小學其他諸女學校に於て參考書又は用書として使用するところ少からず

書肆 通三丁目 丸善。表神保町。中西屋。馬喰町島和。春木町 島利支店。通旅町 中央堂。

下六番町 女學雜誌社

雅俗諸躰 作文口授 全

鈴木弘恭先生口述
一名國文敎科書

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ舉ラレタリ此書ヲ一日セバ如何ナル初學ト雖ル消息記事論説諸躰ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルベシ諸君速ニ購ヲ試ミ給ヘ

出版所 神田美土代町四丁目五番地 敬文堂
賣捌所 麹町下六番町六番地 女學雜誌社

迎接日 毎木曜日午后三時ヨリ 横濱ハ第四土曜朝

巖本善治

診察所 日本橋區大傳馬町二丁目廿五番
住宅 外神田和泉橋通松永町二十三番

渡邊泰

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれづれ草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演説	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾[illegible]三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野信之介君著	昆虫金石植物採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木錄長君著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演説著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治君著	鈴子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

正札付よし

新形　流行

○はおり紐　品々
○帯留類　品々
○時計紐　品々
○メリヤス　品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製
仕○御進物等ニ美麗ニ調進仕候

組糸老舗　日本橋區よし町　佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

專賣特許 新發明 **廣告封箋**

特許出願中

代價十枚ニ付第一號金四錢第二號金三錢第三號第二錢五厘第四號金二錢第五號金一錢五厘

●廣告料一行廿字詰一萬枚ニ付金五錢

●廣告封箋ハ卷紙ヲ用ヒスシテ書狀トナリ又包紙ニモ用ヒラル・便利ノ發明品ナリ

●廣告封箋ハ體裁高尚優美ニシテ安價ナレハ何方ニモ愛翫使用セラル、發明品ナリ

●廣告セハ郵便ヲ利用スルカ故ニ名聲忽チ四方ニ傳播シ商賣ノ繁榮ヲ謀ルニハ最上ノ利器ナリ

發賣所　東京市本郷區春木町三丁目卅五番地　瓢成舍

雜誌定價				
一册	六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
十一册	五拾八錢	郵稅。五錢	(同　前)
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	武圓六拾錢	府外は	武圓八拾六錢

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

大鋤先生調劑 髮のとやし

毛のはへる香油 一名 美人かつら

大瓶 金三十錢　中瓶 金二十錢　小瓶 金十錢

此美人かつらは極々清淨なる植物油をうすめたるものに髮をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髮化粧に用ゆれば髮をとやし髮の發育を盛んにし髮の抜け落てはげる事なくしらが赤毛となる事なし又髮のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又産後病後などに髮の抜け始めしときは少しも早く塗用すべし抜け毛を止め毛わしを速くする事妙なり又既に抜け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女殊に髮化粧に最も適當のものにして髮はさらさらとしてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髮の根に塗り又は常の水油の如くして用ゆべし

發賣本舖

東京市京橋區銀座一丁目 つやぶきん本舗 **佐々木玄兵衛**

賣藥同盟會員

[illegible]二丁目 岸田吟香
下谷町 安川榮次郎
村松町 岩田長藏
兩國米澤町 大木口哲

瀨戶物町 玉置金八
銀座三丁目 松澤八右衞門
池の端仲町 宇田治兵衞
元大坂町 島木與兵衞

本石町二丁目 森谷萬次郎
馬喰町一丁目 平尾贊平
小網町四丁目 黑澤利兵衞
本町四丁目 松本伊兵衞

神田小柳町明治水本舗 明治堂藥舗
神田一ツ橋町小間物店 [illegible]屋
淺草駒形町小間物店 中嶋宮助
同黑船町樂屋洗粉 梅素亭[illegible]城
下谷下車坂町角櫻香油本家 さかいや
同同町兎許藥舗 吉川龜太郎
同下東坂町兎許藥舗 宇藤秀太郎
日本橋區通二丁目小間物店 柳屋五郎兵衞
通油町南新道小間物問屋 村田[illegible]七
同坂本町角藥店 徳田多助
日本橋區室町三丁目紳藥本 家貫生堂
橫山町一丁目小間物問屋 天野源七
同二丁目鼈甲問屋 江川余右衞門
四ツ谷傳馬町小間物問屋 山形屋定次郎
赤坂一ツ木町角洋物小間物 店松[illegible]宮
麹町區三番町兎許藥舗 兩[illegible]下
麻布永坂町保玉散本家 [illegible]

小石川諏訪町一等散本家 花[illegible]
本郷五丁目藥舗 高[illegible]
同眞砂町藥舗 尾[illegible]
橫濱尾上町一丁目藥舗 [illegible]
同所[illegible] [illegible]
[illegible]
武州八王子 [illegible]
相州小田原 [illegible]

武田直七
[illegible]

桂屋正藏
鴻野屋和助
佐野屋熊次郎
日下部現七
松田屋七右衞門
高橋藤七
米山商店
中野商店
渡邊正三郎
木村捨松
伏見屋善藏
鈴木又七
加藤定吉
新田太平
紅屋治三郎
橫田孝史

神戶元町一丁目藥舗 赤井筒中村寶藥店
廣嶋市播磨屋町 福井成美堂
廣嶋市細工町藥舗 高坂萬兵衞
大坂四ツ橋南詰ドクトリ丸 本林丁子堂
同心齋橋筋安土町洋物問屋 大崎組商店
名古屋市本町四丁目 土屋惣兵衞
岡山市上之町六十一番郎 細謹舍
播州姬路福中町 赤井筒支店
西京柳馬場四條上る 田中庄兵衞
加州金澤片町紫雲本舗 龜田伊右衞門
上州高崎町唐物小間物店 若林勝三郎
越中富山二番町 淸水安兵衞
秋田土手長町 新川目小助
奈良縣今[illegible]長町宇四寺四番地 加治新三郎
福岡縣下博多中嶋町角五樂 蜜跡藤井支店
長崎縣佐世保元町 朝日奈支店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

一イコ一奇妙〳〵

コンナ薬で鑵でサヘ毛がはえるから抜毛や薄毛杯は直に澤山毛がふえるに違ひナイ

金三十錢　金二十錢　金十錢

此美人かつらは極々清淨なる植物油をうすめたるものに髪をこやし毛をはやす効能藥を加へたるものにして男女常に髪化粧に用ゆれば髪をこやし髪の發育を盛んにし髪の抜け落てはげる事なくしらが赤毛となる事なし又髪のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなど生ずる事なし又産後病後などに髪の抜け始めしときは少しも早く塗用すべし抜け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に抜け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへると眞實なり男女殊に髪化粧に最も適當のものにして髪はさらさらとしてつやをもちねばつきわせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髪の根に塗り又は常の水油の如くして用ゆべし

發賣本舗

東京市京橋區銀座一丁目

つやぶきん本舗　**佐々木玄兵衛**

賣藥同盟會員

緑町二丁目　岸田吟香
上槇町　安川榮次郎
村松町　岩須長藏
兩國米澤町　大木日哲

瀬戸物町　玉置金八
銀座三丁目　松澤八右衛門
池の端仲町　宇田治兵衛
元大坂町　高木與兵衛

本石町二丁目　森谷萬次郎
馬喰町一丁目　平尾賛平
小網町四丁目　黒澤利兵衛
本町四丁目　松本伊兵衛

神田小柳町明治水本舗　明治堂薬舗
神田一ッ橋町小間物店　樋屋
浅草駒形町小間物店　中嶋百助
同黒船町樂屋洗粉　梅素亭宮城
下谷下車坂町角櫻香油本家　さかいや
同同町兎許藥舗　吉川亀太郎
同下車坂町兎許藥舗　宇藤秀太郎
日本橋區通二丁目小間物店　柳屋五郎兵衛
通油町南新道小間物問屋　村田藤七
同坂本町角藥店　徳田多助
日本橋區室町三丁目神藥本　家貫生堂
横山町一丁目小間物問屋　天野源七
同二丁目鼈甲問屋　江川余右衛門
四ッ谷傳馬町小間物問屋　山形屋定次郎
赤坂一ッ木町角洋物小間物　店松宮
麹町區三番町兎許藥舗　雨下
麻布永坂町保玉散本家

小石川諏訪町一等散本家　花樂堂
本郷五丁目藥舗　高嶋文藏
同眞砂町藥舗　尾澤竹小堂
横濱尾上町藥舗　谷本龜堂
同所賑町一丁目藥小舗　里見亭太郎
同伊勢崎町一丁目角店小間物　小池金治郎
同天通町四丁目小物問屋　信の屋長二郎
同住吉町五丁目三ッかな　加椿品太郎
同吉田町一丁目小間物店　松紫屋芳五郎
同太田町四丁目小物店　山田助
武州八王子八日町　大谷又助
相州横須賀旭町　豐下屋仁助
同所大瀧町　松木金之郎
同汐入町小間物店　山木遊之平
相州横須賀　小屋賀兵衛
同所小田原小間物　油屋金次郎
本町　久次郎

越後中條町
下總佐倉町
駿州吉原宿
同州岡部
山梨縣甲府
仙臺大町
福岡
長野上後町
山形市旅篭町
福井市
静岡呉服町
山形旅篭町
盛岡
函館末廣町
函館本町
神戸元町
武田七

杜屋正藏
鴻野屋和助
佐野屋熊次郎
日下部現七
田屋七右衛門
高橋藤七
米山商店
中野商店
渡邊正三郎
木村捨松
伏見屋善藏
鈴木又七
加藤定吉
新田太平
紅屋治三郎
横田孝史

神戸元町一丁目藥舗　赤井筒中村寶藥店
廣嶋市播磨屋町　福井成美堂
廣嶋市細工町藥舗　高坂萬兵衛
大坂四ッ橋南詰ドクトリ丸　本林丁子堂
同心齋橋筋安土町洋物問屋　大崎組商店
名古屋市本町四丁目　土屋惣兵衛
岡山市上之町六十一番邸　細谷讃舍
播州姫路福中町　赤井筒支店
西京柳馬場四條上る　田中庄兵衛
加州金澤片町紫雪本舗　亀田伊右衛門
上州高崎町小間物店　若林勝三郎
越中富山二番町　清水安兵衛
秋田土手長町　新田目小助
奈良縣今長町　加治新三郎
福岡縣下博多中嶋町　豊跡藤井支店
長崎縣佐世保元町　朝日奈支店